

ボランティア活動 ～ すぐ身近にあったボランティア活動 ～

先日、日曜日の朝8時ごろ、野洲駅から市役所にむけて歩いていると、向こうから大きなごみ袋をそれぞれ持った親子連れがやって来ました。小学校高学年ぐらいの女の子とお母さん、お父さんのようでした。信号の向こうのコインパーキングに差しかかると、その子が長い金ばさみを使って歩道の端に落ちていた紙くずを拾い上げ、ニコニコしながら袋に入れているのが見えました。そして、ちょうど信号の所で私の前を通りかかったので、私はとっさに一言「ご苦労様です。」としか言えませんでした。交差点を通り過ぎてから、「もうちょっと話を聞いといたらよかったなあ。」と思いました。そして、「家族でボランティア活動をするなんて、すごい素敵やなあ。」とも。「こんな経験をしている彼女は、大きくなってからもきっと人に優しい生き方をするんやろうなあ。」と思いました。心があつたまる朝の出会いでした。

ボランティアといえば、もう一つあります。それは確か去年の秋ごろだったと思います。夕方4時ごろ仕事で野洲小から市役所に歩いて戻る途中、7～8名の高校生に出会いました。3人がごみ袋をもち、他の子は金バサミを持っていました。そんなにごみは入っていませんでしたが、燃えるごみが少しともう一つの袋には空き缶が数本見えました。私は「どこの学校ですか？」と聞きました。すると2～3人が「野洲高です。」と。以前から野洲高生がごみ拾いのボランティア活動をしていると聞いていたので、「ご苦労さん。みんな生徒会の執行部なん？」と聞き返しました。「ちがいます。クラブです。」との返事。でも、着ているジャージがバラバラだったので、「何部なん？」と聞くと、「バスケット部」「サッカー部」「野球部です。」などでした。少しだけですが話を聞きました。すると、彼らが野洲駅から高校までの通学路を、こうして時々ボランティアできれいにしてくれていることがわかりました。ジャージには学校名が書いてなかったので、「せめて野洲高の腕章でもつけたら？」と、よけいなおせっかきを口にしてしまいました。でも、さわやかな、うれしい一場面でした。

ボランティアと言えばスクールガードさんや学校応援団活動ですが、小中学校や園とは少し遠いところで活動されている大人や子どもも結構おられます。滋賀県は「びわ湖の日：県下一斉清掃」もあって、府県別のボランティア活動への参加状況は全国トップだとか。また、高齢者のそういう活動への参加が県民の平均寿命（2022年7月厚労省発表⇒滋賀県男性：全国1位、同女性：2位）や健康寿命を引き上げているとも言われています。私たちも仕事とは離れたところでちょっとでも参加できるといいですね。